

(46)

氏名(生年月日)	大 曾 根 彰
本 籍	
学位の種類	博士(医学)
学位授与の番号	乙第 1951 号
学位授与の日付	平成 11 年 11 月 19 日
学位授与の要件	学位規則第 4 条第 2 項該当(博士の学位論文提出者)
学位論文題目	パニック障害とうつ病の Comorbidity—タイプ A 行動パターンの観点から—
論文審査委員	(主査) 教授 田中 朱美 (副査) 教授 亀岡 信悟, 東間 紘

論 文 内 容 の 要 旨

〔目的〕

パニック障害(PD)は、精神科で多く診断される障害である。近年この障害とうつ病との comorbidity(合併)が注目され、臨床的ならびに生物学的研究が進められている。うつ病が合併したPDは予後不良とされているが、両者は性格的にも多くの共通点と若干の相違点があることが知られている。このことから、両者の性格学的レベルの関係の解明が急がれている。本研究では、A型傾向判別表を用いてこの関係を調査する。タイプA行動パターン(TABP)は、それぞれの障害に深く関わっていることが知られているが、A型傾向判別表によって客観的評価が可能である。2つの障害とその comorbidity を臨床的に比較し、この評価尺度が治療や予後予測に有用かどうかを検討する。

〔対象および方法〕

対象は、1997年1月から12月の12カ月間に牛久愛和総合病院心療内科に通院中で、DSM-IVによりPDと診断された100例(男40例、女60例)である。対照群としてうつ病単独(D)の85例を用いた。これらをA型傾向判別表で評価し、TABPについて比較検討した。

〔結果〕

1. PD 100 例中、PD 発症後にうつ病が合併したものの(PD+D)は37例で、うつ病の合併を認めなかったもの(PD-)は63例であった。
2. PD+D 群はPD-群と比較し、有意に通院回数が多く、また通院日数が長かった。

3. A型傾向判別表では30点満点で17点以上がTABPと判定される。PD 100例は平均15.5点で50%がTABPであった。またD群は得点が15.3点で、TABPの割合は43.5%であった。またPD群のうち、PD+D群は平均が18.6点でTABPは75.7%であったが、PD-群では13.8点でTABPは34.9%にすぎなかった。検定結果から、PD+D群、PD全体、D群、PD-群の順でTABPの割合が高いことが判明した。

4. A型傾向判別表の項目中、PD全体では、徹底性、几帳面性、自信、緊張し易さの頻度が高く、競争心、気性の激しさ、勝気、焦燥性・易怒性の頻度は低かった。

5. しかしPD+D群は、PD-群と比較し、熱中性、徹底性、自信、競争心が強い傾向が認められた。

〔考察〕

通院回数や通院日数に有意差があることから、PD+D群は予後不良であることが示唆された。TABPは、PD群とD群はほぼ同じ傾向であったが、これは仕事熱心であるが他者との競争は好まないという、メランコリー親和型性格の特徴とまとめることができる。その中で、PD+D群では精力性や攻撃性が比較的強く、うつ病者のもう一つの病前性格である執着性格の特徴がより多く混在しているものと考えられた。

〔結論〕

TABPを評価することが、PDにおけるうつ病合併の予後予測、および治療戦略に有用であることを示した。

論文審査の要旨

不安神経症として神経症圏におかれてきたパニック障害と内因性精神病圏のうつ病との関係は、近年 comorbidity という概念で両者の合併がとりわけ注目を集めている。本論文は二つの精神障害の関係を、性格レベルで調査した研究である。

パニック障害患者 100 人を対象とし、うつ病の合併の有無でわけて比較検討した。性格評価はタイプ A 行動パターンに焦点づけている。

調査の結果、パニック障害の中でうつ病を合併した亜群には A 型行動パターンが有意に多いことを指摘した。またパニック障害群全体と純粋なうつ病群には性格的相違が認められず、メランコリー親和型といううつ病の病前人格によって両者の共通性をまとめうることを明らかにし、更に合併群には執着性格に比重があるとの相違を指摘している。合併群の予後不良性に鑑みて、本研究の結果は精神病理学的にも重要であるばかりか、臨床的にも価値ある研究である。

主論文公表誌

パニック障害とうつ病の Comorbidity—タイプ A
行動パターンの観点から—
精神医学 第 41 巻 第 4 号 397-404 頁(平成 11
年 4 月 15 日発行) 大曾根彰

(K-SCT) を用いて— 精神医 39(6):617-624
(1997) 大曾根彰

2) タンドスピロンによるパニック障害の新しい治療。精神科治療 14(5):557-564 (1999) 大曾根彰

副論文公表誌

1) 摂食障害者における性格特徴—構成的文章完成法